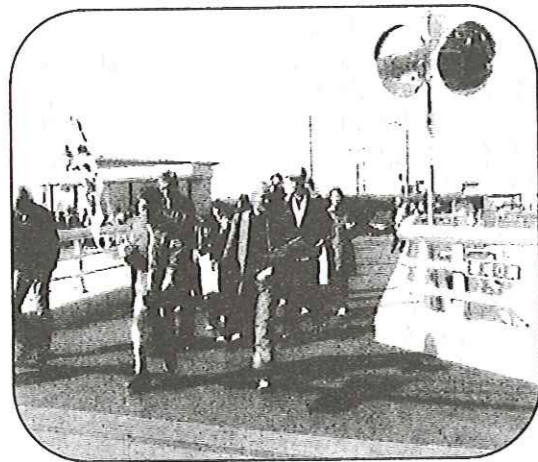


ふるさとの歴史あれこれ発見



二月十一日、建国記念の日奉祝式典(実行委員会主催)の終了後「歴史跡探訪&クリーン作戦」に大人から子ども約百七十人が参加し、歴史に耳と目をむけた。

くしがはま史跡探訪 & クリーン作戦

この史跡探訪とクリーン作戦は、毎年実施され、榑浜郷土史研究会(岩本紀之会長)の説明を聞

歩く会の旗を先頭に銀橋を渡り、岩本さんの説明を聞く参加者



ごみ袋を手に史跡をめぐるスポーツ少年団



きながら、歴史に関心を持ち美しいまちにしようといわれている。今回は、浴地区から八坂神社、毘沙門山、吉祥院、柿本人麻呂神社、龍神社と、体育振興会歩く会の参加もあった。終了後は、婦人会手づくりのカレーがふるまわれた。



号外

榑浜地区コミュニティ
推進協議会広報部
榑浜公民館
TEL 二五二二〇〇二

榑浜地区では、「くしがはま」の表記について、歴史的には旧市町村の合併による経緯もありますが、大字として榑ヶ浜、栗屋のほか大島の一部、久米の一部で構成されているということで、固有名詞として使用されている場合を除き、地区全域を言う場合は「ヶ」を入れずに表記することにしています。

くしがはまに「ヶ」がないお話

その1

公共機関、民間団体は以下の通りとなっています。お気づきでしょうか。

【「ヶ」がつかない】

周南市役所榑浜支所・榑浜小学校
榑浜保育園・榑浜コミュニティセンター
JA周南榑浜支所

【「ヶ」がつく】

JR榑ヶ浜駅、榑ヶ浜駐在所、
山口銀行榑ヶ浜支店
西京銀行榑ヶ浜支店、漁協榑ヶ浜支店



榑浜小学校正門



榑ヶ浜駅

2・3ページにつづく

榑浜小だより =チャレンジ目標自己評価=

文責：三奈木正紀

榑浜小では、この一年間、「にこにこあいさつ20人」「もくもく掃除15分」「どんどん読書〇〇冊」の3つのチャレンジ目標の達成に向けた取組をしてきました。

客観的な評価は、地域の皆様や来校された方など第三者による評価が必要ですが、今回、これらの達成度合を、「A：十分達成 B：概ね達成 C：まだ不十分 D：全く不十分」の4段階で私なりに自己評価をしてみました。

☆にこにこあいさつ20人 自己評価:C (週明け月曜日の朝が低調気味)

最近、やや低調です。気持ちのよいあいさつが自然にできる子どももたくさんいますが、中には、恥ずかしさからか声が出なかったり、なぜか無視をしたように通り過ぎてしまったりする子もいるようです。その時の子どもの心の状態にもよりますが、そんなことは言っておられません。気持ちのよいあいさつは、人が他者とよりよくかかわりながら社会生活を営んでいくために欠かすことのできない大切な「生きる力」だからです。

学校は、「いつでも」「どこでも」「だれにでも」+「相手の目を見てにっこり」と気持ちのよいあいさつが自然にできる榑浜っ子を目指し、力を入れて指導していきます。地域の皆様方には、この課題を前向きにご理解いただき、これまでどおり粘り強く子どもたちに声をかけてくださるようお願いいたします。また、お気づきをしっかり学校にお伝えください。指導や取組の改善に生かしていきます。

☆もくもく掃除15分 自己評価:A (伝統として定着すればダブルA)

1班十数人の1~6年生で構成された26班ある縦割り班掃除がかなり定着してきました。うれしいのは、上級生の真面目に働く姿が下級生のよきモデルとなり、子どもたち全員が一生懸命に掃除に取り組んでいることです。

清掃技術のさらなるアップを含めて、師弟同業の取組を続け、本校のよき伝統までに高めていきたいと思ひます。

☆どんどん読書〇〇冊 自己評価:AとBの間 (冊数はほぼ達成)

各学年で年間50~70冊に目標を設定し取り組んできました。学校図書館を利用する子どもがずいぶん増え、図書館の本を借りては楽しく読んでいます。個人差はありますが、着実に読書量が増えてきたことはうれしい限りです。

さらなる図書の実を隅りながら、本好きの子どもを育てたいと思ひます。

今回、広報誌「コミュニティくしがはま」が公民館報コンクールで、「優良賞」を頂き部員一同うれしく思っています。情報を提供していただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。これからも、皆様に親しまれる広報誌を目指していきたいと思ひます。

現在、今後発行する広報誌の用紙の向きの変更を検討しています。今回は、試験的に号外で縦型にしてみました。

レイアウトや記事の内容等について皆様のご意見をお寄せ下さい。お待ちしております。

榑浜地区コミュニティ推進協議会 広報部(TEL25-2002) 榑浜公民館(TEL25-0525)





磯崎 太一
(中二・居守二)

「建国記念の日」

今日は、「建国記念の日」です。皆さんは、どのような日なのか知っていますか？「建国記念の日」とは、「建国をしのび、国を愛する心を養う」ために作られた国の祝日だそうです。私は、日本という国が好きです。だから、先祖の人達が、この日本を作り上げてくれて良かったなと、建国をしのぶことはできる気がします。でも、国を愛する心を養う、と言われた時、少し戸惑ってしまいます。国を愛するって一体どういうことなのだろう、と。

昨年の三月十一日、日本は大変な災害に見舞われました。東北日本大震災です。東北方面では、地震に津波、原発事故が重なり、かつてないほどの犠牲者がでま

2/11(土)

建国記念の日奉祝式典

主催：実行委員会



した。そして一年がたとうとしている今でも、まだ厳しい状況にあるようです。津波の傷跡が残ったままの町。原発事故の影響で帰ることができない地域。住む家や仕事、家族まで失った子どもたち。震災を体験した人々には想像もできないような思いを、多くの人々がしているのではないかと感じます。そんな被災地の状況を見て見ぬふりができないのは、同じ国に生きる者同士だからだと思います。東北の復興のために、自分ができることを考える。たとえ限られたことしかできなくとも、何か行動に移す。そうやって被災者の人々の支えになるうとする気持ちには、国を愛する心といえるのではないのでしょうか。

は、生徒が積極的に地域のボランティア活動に参加してきまされた。参加する生徒は特に強制されてはいない私たちには想像もできないような思いを、多くの人々がしているのではないかと感じます。そんな被災地の状況を見て見ぬふりができないのは、同じ国に生きる者同士だからだと思います。東北の復興のために、自分ができることを考える。たとえ限られたことしかできなくとも、何か行動に移す。そうやって被災者の人々の支えになるうとする気持ちには、国を愛する心といえるのではないのでしょうか。



橋本 雅音
(小六・東磯町)

「みんなが笑顔でくらせる町へ」

今日は、建国記念の日です。建国記念の日とは、国の始まりを祝う日、そして国を愛することを確認する日のことだと私は意味を調べて思いました。

この祝日は、私がまだ生まれていない昭和四十一年に定められた。四十二年から実施されました。今年で四十五年目になるそうです。私は今まで建国記念の日の意味など、深く考えたことはありませんでした。今回、国を愛することとはどういうことなのか、私なりに考えてみました。

私が日本という国について考えたのは、昨年三月十一日に起きた東日本震災の時です。私はテレビでその様子を見たのですが、津波により一瞬にして町が飲み込まれ、多くの家々が破壊され、そして、たくさんの人の命が奪われました。私の生活や私の周りは今まで通り、何も変わらないのに、テレビや新

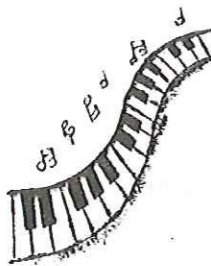
聞で見聞きする光景は、同じ日本だと思えないような、信じられないくらい恐ろしい光景でした。

一年近くたった今、日々復興は進んでいます。しかし、津波によって多くの大切なものを失った人々の心は、今でも大きな悲しみであふれていると思います。東日本大震災後、日本だけでなく世界中のたくさんの人々が募金したり、被災地を訪れボランティアとして復興の手助けをしたりしているのを見ました。いろいろなところで耳にするようになってきました。一日でも早く、東日本の人たちに心からの笑顔がもどってくるように、今日日本に住んでいる私たちみんなが同じ気持ちでがんばらないといけないと思います。国を愛すること、ということ、日本の良さを知ること、そして、「この国に住んでいる私たちみんなが力を合わせて協力すること」なのだと思えます。

では、今の私にできることは何だろうか少し考えてみました。私たち子どもは、学校で一生懸命に勉強に取り組んだり、スポーツなどで心や体を鍛えたりして、たくさんの人たちと絆



「君が代」ピアノ伴奏
濱津 星風
(小四・鼓ヶ丘)



を深め、大人になる準備をすることだと思えます。そして、周りの人への思いやりや感謝の気持ちをいつも大切にしたいと思っています。私たちの住んでいる櫛ヶ浜は、緑豊かな自然と青く広い海にかこまれている。「おはよう」「お帰り」と地域の方々に声をかけていただき、いつもたくさんの人に温かく見守られているのだと思います。私はみんなが笑顔で暮らせるこの櫛ヶ浜が好きです。だからみなさんが築き、守ってきたこの町を、これからも大切にしたいです。私たちが一人ひとりの力は小さいかもしれませんが、合わせればどんなこともできると信じ、自分ができることから初めていきたいと思えます。

元文5年(1740)の地下上申では「櫛ヶ浜」は一村になっている。また、天保12年(1841)の風土注進案には「当浦を櫛ヶ浜と申すことは上古市杵島明神が黒神山よりこの浦に移り玉の櫛を落とされたことから名付けた」と言い伝えている。」

《行政の変遷》

周防の国都濃郡(久米郷、都濃郷、富田郷、生野屋郷、平野郷)久米郷(末武中、末武下、久米、遠石、櫛ヶ浜、栗屋、大島、給などの村々)太華村(明治22年) 櫛浜町(昭和15年) 徳山市(昭和19年)太華村を櫛浜町とするときの経緯を示す村会議事録に、(前略)櫛浜「クシガハマ」ト呼バズ櫛浜「クシハマ」ト呼ブコトヲ確立シ置キ(後略)、という記述が残っている。



「ふるさと櫛浜(昭和62年発刊)より抜粋」

お話 その2

漁協が「ヶ」を入れているのは、旧櫛ヶ浜村民しか組合員がいないから。農協が「ヶ」を入れているのは、栗屋にも大島にも組合員がいるから、ということらしい。そのほかにも大字櫛ヶ浜に所在があるから「ヶ」を入れているところや、櫛ヶ浜村時代からの名称で「ヶ」を使っているところもあります。不動産の登記簿は、「大字 櫛ヶ浜」 住民登録は、「大字 櫛ヶ浜」 櫛浜町誕生の経緯を示した議事録によると、櫛浜は正式には「くしがはま」というべきでしょうが、しゃべりやすさか語呂の関係からか「くしがはま」が定着しているようです。

《地名の由来》

櫛ヶ浜は古くは久米の属村であった。寛永2年(1625)の検地帳には「久米串浜」と記してあり、